

授業科目 実践看護学特論Ⅱ	科目概要・形式 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	細川 満子	
担当者	細川 満子、鳴井 ひろみ、福岡 裕美子、清水 健史、谷川 涼子、泉 美紀子、芳賀 邦子	
1. 科目のねらい・目標 臨床看護の対象となる患者（療養者）・家族が抱える問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探求する。		
2. 授業計画・内容 【細川 満子・泉 美紀子・芳賀 邦子】 在宅看護における諸事例について倫理的・臨床的判断に基づいた看護介入するための方法を探求する。また訪問看護事業所の管理・運営の方法論、および在宅看護の質を改善するための専門的能力を養い、質の高い在宅看護を提供するための能力を習得する。 【鳴井 ひろみ】 がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探究する。診断・治療の原理を基に、がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、治療過程（End of Life Care まで）に伴う患者・家族の反応に適切に対処できるための身体的管理・看護援助を学ぶ。 【福岡 裕美子】 我が国の高齢者の現状について理解を深め、認知症高齢者や慢性疾患を持つ高齢者の個々の状況（身体的・精神的・社会的）に応じた援助を実践するためのアセスメント方法や看護実践の方法を探求する。 【清水 健史】 精神科領域での看護援助に求められる、カウンセリング技法、援助的コミュニケーション、グループアプローチの理論を学び、効果的な精神看護の介入方法を探究する。 【谷川 涼子】 小児看護における諸事例について倫理的・臨床的判断に基づいた看護介入するための方法を探求する。また、子どもを取り巻く環境を理解し、他職種と協働した看護ケアを提供するための専門的能力を養い、質の高い小児看護を提供できる能力を習得する。		
3. 教科書、参考書 特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。		
4. 成績評価方法 参加態度、レポートで評価する。		
5. 受講要件 看護師免許を有する者。		
6. 社会人学生に対する配慮 夜間開講を基本とするが、受講生と相談の上履修時間を調整する。 WEB ラーニング対応可能。		
7. その他		